



01 国際交流員のコラム

- 鹿児島県国際交流員 ウォン イミン -

○南国の冬

02 知事の動き

- シンガポール薩摩会(鹿児島県人会)との懇談会を開催しました(1月15日)
- 在シンガポール日本国大使館を表敬訪問しました(1月16日)
- スクートを訪問しました(1月16日)
- 「第22回鹿児島・シンガポール交流会議」ラウンド・テーブル・ミーティングを開催しました(1月16日)
- 「第22回鹿児島・シンガポール交流会議」知事主催レセプションを開催しました(1月16日)
- シンガポールにおいて観光セミナーを行いました(1月17日)
- 第77回インド共和国記念日祝賀レセプションに出席しました(1月26日)
- クルーズ船社「MSCクルーズ・ジャパン」と「カーニバル・ジャパン」を訪問しました(1月30日)

03 かごしまのイベント情報

- いぶすき菜の花マラソン(1月11日)
- 第26回 世界一桜島大根コンテスト(1月31日)
- 🐾 Coming UP! 【令和8年3月, 4月のイベント情報】

○南国の冬

鹿児島県国際交流員 ウォン イミン(シンガポール出身)

日本本土の南端に位置する鹿児島県の夏は暑いし、冬は温暖です。白い雪景色より、青な自然のイメージが強いところかもしれません。

私も最初は、「鹿児島の冬」のイメージがあまりなかったです。でも実際に暮らしたら、南国の鹿児島でも冬の魅力があることに気づきました。



今回は、ちょっとだけ鹿児島の冬の風景を紹介したいと思います。

ツルおよびその渡来地

毎年の冬になると、シベリアや中国から1万羽を超えるツルが鹿児島県の出水市へ渡ってきます。日本最大のツルの渡来地でもあります。

2021年には「出水ツルの越冬地」がラムサール条約湿地に登録されて、国際的に重要な湿地として認められました。

ツルの数が最も多いのは12月から1月ぐらいですが、11月から3月頃に見ることもできます。1万羽超えのツルが空を舞う姿は写真で伝えきれない迫力があります。



ツルたちは日中に餌を探したり、羽を整えたり、時々舞う姿を見ることができますが、特におすすめしたいのは早朝です。

毎日、午前6時半から7時頃は出水市ツル観察センターでの給餌の時間です。その時だけはツルたちが一斉に飛び立つ姿が楽しめます。



夜明けの淡い光の中、無数のツルが一気に空を飛んで舞う景色は本当に息をのむ美しさです。あの光景は鹿児島県の冬を象徴する風景の一つだと思います。



冬のイルミネーション

鹿児島県には雪まつりなどなイベントはありませんが、冬なら楽しめるイルミネーションがあります。

鹿児島市のみなと大通り公園のイルミネーションの規模は大きくありませんが、市街地の中心にあるので仕事帰りや食事後にちょっとでも楽しめる美しさがあります。



また、鹿児島県立吉野公園で開催されるイルミネーションイベントはより大規模で、色鮮やかに約100万球のLEDが光り輝きます。



イベント中、公園全体が光に包まれました。入口には屋台が並び、寒い空気の中で人々が温かい食べ物を手にしながら光を楽しんでいました。

イルミネーション展示の中には、西郷隆盛と愛犬、錦江湾と冠雪の桜島などもあり、鹿児島らしさを感じられました。



甕島で発見された恐竜の化石をモチーフにして、大きな空気で膨らむ恐竜のオブジェの展示もありました！



雪に覆われた鹿児島市

最後に、鹿児島市では雪はめったに降りませんが、条件がそろうと年に1、2日ほど雪の景色を見ることができます。

ある朝、目覚めたら鹿児島市が真っ白な雪に包まれて、いつもの風景がまるで別の世界のように感じられました。



近所の公園では、花や葉の上にふんわりと雪が積もり、子どもたちが嬉しそうに走り回っていました。あちらこちらに小さな雪だるまが見えて、一台のかわいい雪の市電もありました。



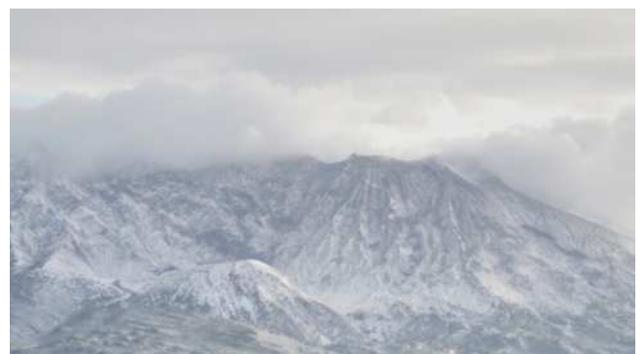
そして、雪を被っていた活火山の桜島も見えました。雪がやんでしばらくすると、桜島の二つの峰の違いがはっきりと分かりました。

休火山の北岳には雪が厚く残り、活火山の南岳では雪が薄くなっていきます。同じ山でありながら、火山活動の違いが雪の残り方に表れるのはすごくありませんか？



一年中に夏しかないシンガポールで育った私から見ると、雪は今でも特別な存在です。

豪雪地帯での生活はきっと大変と思いますが、南国の鹿児島でも、時々出会える雪景色は私にとって素敵な「冬の贈り物」です。



02 知事の動き

○シンガポール薩摩会(鹿児島県人会)との懇談会を開催しました(1月15日)

シンガポールにおいて、シンガポール薩摩会(鹿児島県人会)の皆さまとの懇談会を開催しました。

シンガポール薩摩会は、県出身者が中心となって発足した組織であり、今年で設立40周年を迎え、これまで鹿児島とシンガポールの交流促進に多大なご尽力をいただいております。

県としましては、今後もシンガポール薩摩会の皆さまのご支援、ご協力をいただきながら、鹿児島とシンガポールの交流を更に発展させ、絆をより一層深めてまいります。



◀シンガポール薩摩会の皆様と

○在シンガポール日本国大使館を表敬訪問しました(1月16日)

在シンガポール日本国大使館を表敬訪問し、「鹿児島・シンガポール交流会議」をはじめとするシンガポールと本県との交流状況をご説明するとともに、シンガポールの経済状況等について意見交換を行いました。

石川浩司大使からは、本県の和牛やお茶、ブリ・カンパチ、焼酎等の県産品の販路拡大やインバウンド促進に向けた助言等をいただきました。

今後とも、シンガポールでの本県および本県産品の認知度向上を図り、更なる販路拡大や観光誘客の強化に取り組んでまいります。



▲石川浩司大使との記念撮影

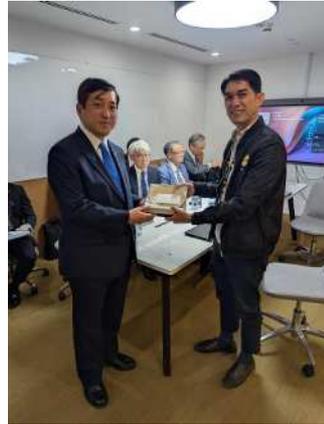


▲在シンガポール大使館での記念撮影

○スクートを訪問しました(1月16日)

県議会や県内経済団体の代表の皆さまとで編成した、第22回鹿児島・シンガポール交流会議の訪問団で、シンガポール航空傘下の航空会社「スクート」を訪問し、本県へのチャーター便運航や定期便就航の可能性について、意見交換を行いました。

私からは、シンガポールから本県への観光客が増えている実情をお伝えするとともに、鹿児島島の観光や食の魅力セールスし、今後のチャーター便運航や将来的な定期便就航の要望を行いました。



▲スクートへの訪問の様子

○「第22回鹿児島・シンガポール交流会議」ラウンド・テーブル・ミーティングを開催しました(1月16日)

日本・シンガポール外交関係樹立60周年の記念すべき年に、「第22回鹿児島・シンガポール交流会議」のラウンド・テーブル・ミーティングをシンガポールで開催しました。

鹿児島とシンガポールとは、1982(昭和57)年の第1回交流会議以降、40年以上の長きにわたり、経済、観光、芸術・文化、青少年など幅広い分野における交流を積み重ねてまいりました。

私のほか、県議会や本県経済団体の代表者と、シンガポール政府関係者および各分野の代表者を交え意見交換を行い、その結果、今後も引き続き幅広い交流を継続することとし、次回の交流会議は、2年後の2027(令和9)年度に鹿児島で開催することについて合意しました。

シンガポールは、東南アジアの物流や金融、情報のハブ機能を有する世界屈指のグローバル都市であり、本県にとって、県産品の市場や観光誘客先としても、非常に重要な国だと考えています。

今回の交流会議を契機に、今後、鹿児島とシンガポールとの友好関係がますます発展するよう取り組んでまいります。



▲ガン大臣との懇談の様子



▲出席者の皆様との記念撮影

○「第 22 回鹿児島・シンガポール交流会議」知事主催レセプションを開催しました(1月16日)

ラウンド・テーブル・ミーティング出席者や在シンガポール日本国大使、食品・流通、観光関係者など約 120 名をお招きしたレセプションを開催し、鹿児島和牛やブリなど鹿児島が誇る食をご堪能いただきました。

また、鹿児島の本格焼酎やお茶、黒酢のほか、本県の観光や薩摩切子、シラス製品などの特産品の PR も行いました。

今後とも、このような機会を通じて、本県や本県産品の認知度向上を図り、更なる輸出拡大と誘客促進に繋げてまいります。



▲乾杯の様子



▲レセプション会場の様子

○シンガポールにおいて観光セミナーを行いました(1月17日)

シンガポールにおいて、訪日旅行に関心のある方を対象に、観光セミナーを開催し、桜島や屋久島、砂むし温泉、鹿児島の四季など、本県観光の魅力を PR しました。

会場では、焼酎や黒酢の試飲、薩摩切子かけら細工の体験などを通して、参加者に鹿児島の魅力の一部を体験していただきました。

また、県内を 7 泊 8 日で周遊する旅行商品を発表したところ、その場で予約される参加者も見られるなど、本県への関心を喚起し、旅行意欲の向上につなげることができました。

今後も、シンガポールからのさらなる誘客に取り組んでまいります。



▲本県観光の魅力をPRしている様子



▲会場の様子

○第 77 回インド共和国記念日祝賀レセプションに出席しました(1 月26日)

在福岡インド総領事館主催の第 77 回インド共和国記念日祝賀レセプションに出席し、来賓としてあいさつをさせていただきました。

インド共和国記念日は、多様な宗教、言語、民族を内包しながら、民主主義と自由、尊厳を選びとったインドの人々の勇姿と英知を称える日であると考えており、あいさつでは、インド共和国とインド国民の皆さまへの心からの祝意をお伝えするとともに、鹿児島とインドとの関係をさらに深めていきたいとお話ししました。



◀レセプションでの挨拶の様子

○令和 7 年度「鹿児島のタベ」を開催しました(1 月29日)

東京都渋谷区のセルリアンタワー東急ホテルで令和 7 年度「鹿児島のタベ」を開催し、関東在住の薩摩大使をはじめ、百貨店・量販店バイヤー、食品流通関係者、観光関連事業者など、約 550 名の方にご出席いただきました。

今回は、「日本一の宝物で『稼ぐ』鹿児島へ！」を開催テーマとし、県内の事業者に出展いただき、日本一の県産和牛、養殖ブリ・カンパチ、お茶、本格焼酎などを中心に、鹿児島が誇るたくさんの県産品を PR しました。

また、ステージでは、瀬戸内町出身の里歩寿さんによる島唄のほか、鹿児島市出身の作詞家京えり子さんが作詞された「暖流桜」を演歌歌手の川中美幸さんが披露され、会を盛り上げてくださいました。

本年も、事業者の皆さまと連携しながら、鹿児島県のすばらしい宝物の認知度向上や、国内外における販路拡大、本県の魅力発信、観光誘客などに向けて取り組んでまいります。



▲会場の様子

○クルーズ船社「MSCクルーズ・ジャパン」と「カーニバル・ジャパン」を訪問しました(1月30日)

鹿児島にクルーズ船で数多く寄港していただいている船社「MSCクルーズ・ジャパン」と「カーニバル・ジャパン」を訪問しました。

両社に対しては、鹿児島への継続した寄港に対して感謝を申し上げるとともに、今後の寄港計画や寄港地観光ツアー先の拡大、県産品のクルーズ船での活用についての意見交換を行いました。

両社とも、鹿児島の寄港地としての魅力を高く評価しており、今後、さらに寄港を増加させていきたいというお話がありました。

今後とも、本県へのクルーズ船の寄港継続・増加を図るとともに、経済効果の波及に積極的に取り組んでまいります。



▲MSCクルーズ・ジャパン訪問の様子



▲カーニバル・ジャパン訪問の様子

03 かがしまのイベント情報

○いぶすき菜の花マラソン(1月11日)

「いぶすき菜の花マラソン」は、一年で一番早く開催されるマラソン大会です。

当日は、市民総出の沿道での応援や、ぜんざい・ふかし芋などの数多くのふるまいでランナーをおもてなしました。

「池田湖」や「開聞岳」を眺めながら満開の菜の花の中を駆け巡りました。国内のマラソン大会の中でも、高低差が大きいコースとして広く知られています。

走った後は、名物「砂むし温泉」などで疲れを癒すこともでき、1日で指宿を満喫できるイベントです。

2024年より、開聞岳の風景が美しい池田湖畔をフィニッシュ地点とした、約12kmの「ファンランニングー池田湖コースー」も同時に開催されています。



◀菜の花と池田湖が咲き誇る沿道を数多くのランナー

○第 26 回 世界一桜島大根コンテスト(1月 31 日)

丹精込めて育てられた、驚くほど大きく、美しい桜島大根が全国から集結しました。

当日は、コンテストの他にも、火の島太鼓による演舞や桜島大根重量当て、野菜の詰め放題なども行われ、会場は大いに盛り上がりました。



▲コンテストの様子 引用元:鹿児島県HP

Coming UP! 【令和 8 年 3 月、4 月のイベント情報】

◇ 3 月

1 日 鹿児島マラソン 2026 (鹿児島市)

8 日 鹿児島神宮 初午祭 (鹿児島市)

◇ 4 月

25 日~26 日 かごしま春祭大ハンヤ 2026 (鹿児島市)

是非足を運んでみてください♪



編集後記 (鹿児島県観光・文化スポーツ部 国際交流課)

皆様こんにちは。

鹿児島でも雪が降ったかと思えば、冬とは思えないような暖かい日が続いていますね。この時期によく耳にする「三寒四温」は、寒い日が3日続いたあとに4日ほど暖かい日が訪れる周期的な気温の変化を指します。最近は冬の終わりから春先の天候を表す際に使われるようになりました。

天気を表す英語表現で有名なのは“*It's raining cats and dogs.*”（どしゃ降り）ですが、イギリス出身の国際交流員から“*Four seasons in a day.*”という表現を教わりました。1日のうちに四季が全部訪れたかのように天気がめまぐるしく変わる、という意味だそうです。天気が変わりやすいイギリスらしい表現ですね。

皆さんの国にはどのような表現がありますでしょうか？

寒暖差の大きい時期ですので、皆さまどうぞ体調にお気をつけてお過ごしください♪

「かごしま南の風便り掲示板」では、次の鹿児島に関する話題を募集・掲載いたします！

☆鹿児島フォトギャラリー

鹿児島らしさを感じる写真や海外で見つけた鹿児島に関する写真を募集いたします。写真の簡単な説明を添えてお送りください（例：克灰袋の山）。

その他、読者の皆様に発信したい情報もお待ちしております。

▲▽ 記事提供・お問い合わせ先 ▼▲

鹿児島県 観光・文化スポーツ部 国際交流課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

電話番号: +81-99-286-2306

FAX 番号: +81-99-286-5522

電子メールアドレス

英語: cir1@pref.kagoshima.lg.jp

中国語: cir2@pref.kagoshima.lg.jp

韓国語: cir3@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島県庁ホームページ

<http://www.pref.kagoshima.jp/>

鹿児島県観光サイト かごしまの旅

<https://www.kagoshima-kankou.com/>



※ 本記事の著作権は鹿児島県に属します。無断での再配信、転載及び掲示板等への掲載は禁止します。